

「ファッションショー実施」についての考察

「G I F Uを着る」「Fashion Show of the Future Designers in GIFU」を通して

Reflections on Carrying Out Fashion Shows Entitled,
“GIFU wo Kiru” and “Fashion Show of the Future Designers in GIFU”

伊藤 陽子

Yoko Ito

Abstract

In this paper, the author reports on how she planned, administrated, and carried out a fashion show which was a part of a department course. In relation to this topic, the following areas are discussed: what shape the course took, how the fashion show was put into practice, the significance of its implementation, and improvements to made in the future. In addition to the author's own reflection on these areas, student opinions are also included.

Keywords: ファッションショー 授業 岐阜 学生 アパレル 産・官・学連携

はじめに

2002 年より「ファッションショーを授業で行う」と言うことに取り組んできた。7 回目を終え一段落がついたところで、「ファッションショーを授業で行う」事について振り返っての考察を行う。

I 背景

まず「ファッションショー」とは何かから述べる。
石山彰編 日英仏独対照語付 服飾辞典 ダヴィッド社 によると「服飾の新型流行を特定または不特定大衆に見せる催し。」である。

本校紀要 第 52 輯^①、第 54 輯^②、で報告してきたように 2002 年より、私は本校生活デザイン学科の開講科目の中で「ファッションショー」の企画・運営・実施を行ってきた。産・官・学連携の取り組みであり、短大と地域との交流と言う観点から実施を行ってきた。しかし一方では「授業で行う」と言う点に私はこだわってきたので、その点について見ることにする。

最初の 4 年間は「ORIBE ワールド・ファッションシリーズ」として、岐阜県の費用で行った。後の 3 年間は財団法人中部産業活性化センターからの受託事業として（2006 年度は伊藤が研究代表として、2007、2008 年度は生活デザイン学科として）受けた。

「G I F Uを着る」に対しての授業科目は 2002 年度、2004

年度、2005 年度は 7 月にファッションショーを実施したので、そのとき前期に開講されていたマーケティング演習、ファッションビジネス演習、ファッションデザイン演習の時間を調整して計画を立てた。2003 年度は 2 月実施なので卒業研究生が実施した。

このファッションショーを実施してきた事が文部科学省による平成 15 年の「特色ある大学教育支援プログラム」にも認められたということで、はっきりと授業にファッションショーを行う時間を設定しようと言う学科の取り組みにより、2006、2007 年度は「ファッションデザイン演習Ⅱ（実践）」の科目が設けられた為、この時間を全面的に使用した。2008 年度はこの開講科目はなくなり、学科内で学生が授業としてファッションショーを企画・運営・実施することへの見直しの意見があり、教員達が行う予定で始めた。しかし、受託事業の相手先である財団法人中部産業活性化センターには学生への支援事業を行うという目的があり、学生の実施が必要なので卒業研究室単位に呼びかけた。参加したのは伊藤のファッションデザイン研究室だけであった。7 回目となる「G I F Uを着る」の企業とかかわりのある部分は伊藤の開講科目である「ファッショントレンド研究」で行った。

本校紀要 第 52 輯、第 54 輯及び「次世代層に対するアパレルデザイン技術啓発活動報告」^③、「次世代層に対するアパレルデザイン技術啓発活動報告書」^④、において報告しているので

詳しいことは参照していただくことにして、ポイントだけを挙げていく。

II 「ファッションショーを授業で行う」目的

私が生活デザイン学科という中で学ぶことの出来る1科目として「ファッションショー」を授業で行うことにこだわった理由をつぎに挙げる。

- ① 選抜された実行委員会ではなく、できるだけ多くの学生に、平等に「ファッションショー」を行う機会を与えたい。
- ② 外部からのプロの指導者を招いての授業を計画しているので、その人に接する機会も学生に平等に与えたい。
- ③ 自分の持つ得意の技術・才能を伸ばしながら、それぞれが集合して、協力して全体を作る作業をしたい。
- ④ 組織で動くことにより、どの部分が滞っても、欠けても全体が出来なくなることを学んでほしい。
- ⑤ 「ファッションショー」をするだけでも作業がこれだけ沢山あることを知らせたい。
- ⑥ ビジネス体系、ファッション情報は知識として得ることも出来る。しかし、この「ファッションショーの企画・運営・実施」は体験しなければ分かるものではないのでそれを体得してほしい。
- ⑦ ファッション業界には、デザイナー、パターンメイカー、だけではなくファッションショーをプロデュースする仕事、演出家、スタイリスト、また、設備屋さん、音響さん、照明さん、写真屋さん、報道など種々の職種があることを知ってほしい。

III 授業での実施

1. 最初に考えること

- ① 何の目的のファッションショーを開催するか。
- ② 助成機関はどこか。
- ③ そこでは何を主張したいか。
- ④ どの規模で行うか。
- ⑤ 日程、時間、場所の設定。
- ①-1 7回開催してきた「G I F Uを着る」について。
最初に決めたその年のテーマに基づき、岐阜アパレルの企業を学生が訪問して、その商品から自分たちの借り受けたものを選び借りてくる。年によって17社から13社。借り受けた商品を企業ミックスして、若者の着るファッションとしてコーディネートする。
- ①-2 受託事業の“Exhibition of the Future Designers in GIFU”について。
中部地方の企業からテキスタイルの供給を受けその

布地を同じく中部地方の参加校（大学・高等学校・専門学校）に送り、地元の生地で、地元のアパレルに提案する衣裳デザインをしてもらう、と言うコンセプトで作品募集をした。それをファッションショー形式で見せ、後援団体、企業から奨励賞を出してもらった。

- ②-1 岐阜県
- ②-2 財団法人中部産業活性化センター
- ③-1 岐阜アパレルを若者の着るファッションとしてコーディネートする。
- ③-2 地元のテキスタイルを、地元の学生が、地元のアパレルに提案する衣装にする。
- ④-1 プロモデル5名と学生モデルとで30～100セットを見せる。岐阜県の提案の中で選ぶ（アクティブG TAKUMI ミュージアム）（1～4回）。
5～7回は学生モデルで30セット。下記と併催。
- ④-2 名古屋圏からも交通の便利がよく、大きな舞台が出来、収容人数も多いところ（旧ぱ・る・るプラザ、現じゅうろくプラザ）。
- ⑤-1 できるだけ「アクティブG」の開館記念日にあわせる（1～4回）。
- ⑤-2 前期に作品制作が出来るように、ファッションショーは夏休み前後にする。

2. 「ファッションショー」までの日程の全体像をつかむ

- ① 開催予定日を目標に授業時間を割り振り、活動予定を立てる。
- ② 授業時間内に収まらない時が予想されるので、学生の一週間の授業時間、サークル、アルバイト時間等を考え、活動可能な時間表を作成する。
- ③ 外部講師の授業時間予定をいれる。

3. ファッションショーの企画にかかる前に学ぶこと

ファッション産業の業態を学ぶ

①繊維業界の職種

川上・・・「第一次製品段階」 テキスタイル・インダストリー …製糸業、紡績業、化合繊維メーカー、糸商、織屋、ニット業、染色整理業、商社、産元、服地卸問屋（テキスタイル・コンバーター）

川中・・・「第二次製品段階」 アパレル産業 …アパレルメーカー、縫製メーカー、下請け加工業、付属品メーカー

川下・・・「小売段階・小売最終段階」 ファッション小売産業 …百貨店、専門店、ブティック、量販店、アパレルメーカーの直販店やフランチャイズ・チェーン

ン店。無店舗販売。川上企業、川中企業のアンテナショップ。

②ファッション情報の動き

2年前・・・カラーの決定…インターカラー

1 年半前・・・糸の展示会…エキスポフィル、ピッティ・フィラティ等

スタイリング情報…プロモスフィル、ネリーロディ等

1 年前・・・テキスタイル展…ブルミエール・ヴィジョン、ジャパנקリエーション、インターストップ等

半年前・・・プレタポルテ・コレクション…ロンドン、ミラノ、パリ、ニューヨーク、東京等

当年・・・小売に並ぶ

③繊維産業の企業について

世界、日本、中部地方、岐阜と絞り込んで、アパレル企業の名称、ファッションブランド名、デザイナー名等を調べる。織研新聞、週間WWD、各種ファッション雑誌を使用。

4. ファッションショーを企画する

Ⅲ-1. で決定した事を前提にファッションショーを企画する

① クラスを5つのグループに分け、グループ毎にファッションショーのデモを企画する。この作業によりファッションショーの全体像、各係りの仕事を把握することができる。企画をマップにして発表する。その時点で手元にある、デザイン画や商品写真を使用し、ファッションショーの大きなタイトルは同一のものにする。その中での実験である。

・マップへの記入必要事項

- ・ タイトル サブタイトル テーマ シーン別を決定記入。
- ・ 開催日時、開催場所は予定されているものを入れる。
- ・ 主催、後援、協賛、協力、企画・運営・実施、プロデュース、演出、スタイリスト等実際に必要な項目は全て考える。
- ・ ポスター、チラシ、台本の制作。
- ・ 音響、照明の決定。
- ・ 舞台構成、ウオーキング等も考える。

企画したものを、マップにして全員で発表する。

この工程で、ファッションショーの中にどのような仕事があり自分はどの仕事をしたいかを決める基にする。

②実際に開催するファッションショーの企画に入る。

- ・ ファッションショーの目的、タイトル、参加者、主催、共催、後援、協賛、協力、企画・運営・実施、プロデ

ュース、演出、スタイリスト、また、開催日時、開催会場は決定事項となるので学生はさわらない。

- ・ 「G I F Uを着る」では全員でファッションショーのサブタイトル、つまり自分たちがこのファッションショーで訴えようとするテーマ及び4～5のシーンを決定する。
- ・ **Exhibition of the Future Designers in GIFU** ではコンテスト出品作品のグループ分けを行う。
- ・ 全体でファッションショーを行うのであるが本番においては先に経験した各係りの中から自分がしたい担当を選ぶ。
- ・ 係りには準備段階から当日までかわるものと、ポスター制作のように最初のうちに終了するもの、また、当日発生する、受付・会場係り等がある。それぞれの係りを事前、当日、終了後の係りにわけそれぞれの場所に全員が着くように決める。

事前

- ・ 演出・構成
- ・ ポスター、及びチラシ制作
- ・ スタイリスト
- ・ 音響、映像
- ・ 照明
- ・ 広報(テレビ、ラジオ出演を含む)
- ・ 連絡(参加者、企業、ベルフォートアカデミーオブビューティ等との)
- ・ 台本製作
- ・ プログラム、パンフレット制作
- ・ 記録
- ・ モデル・フィッター担当
- ・ 情報・コンピューター担当
- ・ 企業訪問 (G I F Uを着るのアパレル訪問、Exhibition of the Future Designers in GIFU のテキスタイル企業訪問)
- ・ 商品管理、作品管理
- ・ 衣裳作成 (Exhibition of the Future Designers in GIFU の場合は入賞者)

前日、当日

- ・ 会場設営
- ・ 搬入
- ・ 受付
- ・ 演出、演出補助
- ・ スタイリスト
- ・ 音響、映像
- ・ 照明
- ・ ナレーター

- ・モデル
- ・フィッター
- ・連絡
- ・記録

終了後

- ・連絡（お礼状等）
- ・商品返却
- ・記録

5. ファッションショーを運営する

各係りに分かれて、作業を開始するがその時の取り決め事項

- ① 毎回授業の最初30分は、各係りの仕事の進行状況と、現在の中心となっていて仕事、問題点等を全員でミーティングして報告する。この作業を行うことによって、自分がしていない項目についても全体像がつかめる。一つひとつの役割がばらばらに考え作業を進めるといけないので、常に全体の状況、その中で私の部署はなにをするかを知る。また、全体のコンセプト、方向があるのでその中で作業を進める。一方ではその時々忙しい仕事があるので、お互いに助け合えるようにする。このミーティングにより全員が「いま、わたしはファッションショーを作成しているのだ」という自覚を持つ。
- ② 外部講師が授業をする場合は全員が参加する。
この体験は貴重なので、大切にしたい。
外部講師によるファッションショーの演出は学生との連携も大切である。伊藤が仲介となって学生が作成した資料を演出家に送ったり、演出家から送られた情報を学生に示すことも行ったが、学生が直接演出家と連絡を取って仕事を進める方法も取った。演出家が授業に来たときは全員のミーティングから参加して、その後、個々の部署の指導にあたった
- ③ ファッションショーを作成する作業はポスターやチラシ制作のような一番にしなければならない事と、台本作成、ナレーション作成、当日配布のパンフレットなどのようにファッションショーの骨組みがほとんど完成しないとかけられない仕事がある。この時間差があるが台本作成にしても、ファッションショー組み立ての製作過程を見ていないと、全体像をきちんと反映できるものは作成できない。必ず全体像を把握する。
- ④ 仕事を決して一人で抱え込まない。このためにデジカメ、フラッシュメモリ、CD等を揃え、作業過程で逐次情報を記録していく。作業中の物を必要な時にすぐ見ることが出来るように仕事別のボックスに情報を

入れる。昨日作業をした人が今日いなくても、他の人が引き継いで仕事出来るようにする。

全てを共有できるデータにするのは大変のように見えるが、この方法は全員参加型のファッションショーを運営していく上で必要なことであった。時々学生が自分のフラッシュメモリに入れたままで、他の人が見ることが出来ないということもあったが、ほとんどの場合はうまく行った。

- ⑤ 作業チェックは必ず2人以上で行う。表や品物も人名も、OKのつもりでも、もう一人が別の目で見ると書いた人とチェックする人は違う人で行う。
最初に以上のことをはなし、約束をするが毎週のミーティングで出てきた問題は、その都度入れていく。

運営時の細かい作業の様子や作成した表などは前述の4編にいてあるので参照されたい。

企画・運営を行っている期間に伊藤は外部との交渉—後援依頼、テキスト提供依頼、商品提供依頼、参加校募集、会場依頼、現場との打ち合わせ、奨励賞提供依頼、必要品の調達等を行う。

- ⑥ 「G I F Uを着る」に関しては企業訪問、商品管理、衣裳コーディネート、モデル探し等、種々の作業が消化されていく。これらの詳しい様子は前述の資料を見ていただきたい。
ここでは外部講師のスタイリストの指導がとても生きてくる。学生の思いでコーディネートはしても後一押し、何かが足りない、どうしたらいいであろうか、と迷っている時、プロのスタイリストのアドバイスが心に響いて先へ進むことが出来る。色々なシーンに分けてコーディネートを始めるが、学生たちの好みにはあまり差がない。どうしても同じようなテイストになりがちである。そこでシーン毎の違いをどのような方法でつけるか、その仕方を教える、事例を示す、などをしてもらい学生は救われる。

6. ファッションショーを実施する

ファッションショー前日

搬入と、会場設営、リハーサルを行う。搬入は学生及び企画会社等助け人がした場合と、2007年度 2008年度のように教員が中心で行った時がある。どちらにしても当該学生はその業務にあたった。会場では椅子を並べる会場設営から、衣裳を楽屋へ運びファッションショー出演の準備、受付の準備とパンフレット配布の準備など一日がかりである。リハーサルがあればそれも行う。ここ

「ファッションショー実施」についての考察

でナレーションが必要になる。

アクティブG TAKUMI ミュージアムでの「G I F Uを着る」の場合は照明器具設営も教員、学生が担当した。

これまでにテレビ出演、ラジオ出演等が入っている。

演出家との打ち合わせ、リハーサル時には多くのことを演出家からまた、学ぶ。

当日

当日の役割分担に従って仕事を行う。開講科目の授業単位で行っている時は人数があるのでスムーズに行くが、担当を卒業研究で行う場合は、どうしても人手が足りない。受託研究の場合は同じ主催者である、財団法人中部産業活性化センターの方々、共催である、岐阜市役所商工観光部の職員が受け付けの手助けをしてくれた。

当日、台本修正があったり、パンフレットが出来上がったりと、いろいろのアクシデントが起こる中で、学生は非常に緊張と、喜びと、責任感を持ってファッションショーを遂行した。

当日ファッションショーが終了すれば搬出と同時に、会場を元の形に戻すこと、楽屋の掃除等、あとかたづけにおわれる。

終了後

ファッションショー終了後は後始末がある。

- ① 企業から借りた衣裳の点検、返却作業。
- ② お礼状の作成、投函。
- ③ 資料のまとめ。
- ④ レポート作成。

反省点

運営の時に難しかったのは“Exhibition of the Future Designers in GIFU”での参加校との連絡である。

2006 年度の場合は学生単位で連絡を行ったが、2007,2008 年度は、連絡を教員が担当した。ここでは学生の作業と時間差があり、また必要項目がなかったりでファッションショー準備にさしさわりのあり、再度別便を必要とした。これらは相手方に迷惑をかけることになるので、事前に必要項目の確認、必要時期を打ち合わせしておく必要があった。2006 年度に作成した資料、方法を活用できたのであるが、連携が上手に行かなかった。

また、参加校の学生にとっては、自分はモデルで、デザイナーで、お客さま、と言う意識なのか、当該学生がファッションショーの実施をしていることへの認識、理解が少ない。

楽屋の使用に関しては事前に注意事項を渡してある。またファッションショー終了後、ごみは帰りに持って帰るよう張り紙もしてあるのにもかかわらず、弁当の空き箱などご

みの山である。それを当該学生は黙々と片付けて廻っていた。掃除機をかけていた。

全てが勉強であった。

おわりに

7 回のファッションショー実施を授業という形態の中で実施できたことは、幸せであった。学生たちはその中で、ひとつのことを、責任を持って遂行する大切さ、大変さを学んだ。企画から実施、後片付けにいたる半年の作業を学んだ。外部講師による貴重な教育も受けた。いろいろな連携校とのかわりも感じた。企業訪問、企業の商品を借りてコーディネートをするときに、企業の様子、働き人の様子、企業へきているバイヤーたちの様子をみて、自身の進路を考える助けにもなった。

「これからの人生の中でふたたび係わることがない、ファッションショーだ。ここで十分に働こう」と言う思いで参加していた学生もいる。

7 年続けてきたことで、学生たちのファッションショーに対する実力がついてきた。1 年生の時はモデル、フィッターで参加をした。2 年生になったとき、1 年生時に感じた「こうしたかった」と言う思いを、自分の番で実現していった。体験したことは身につけて、学園祭、卒業研究発表のファッションショーも 7 年前から比べると、随分美しくなっていると感じる。学生たちが、やり方がわかった、ファッションショーってファッションショーなんだ。怖くない。そう思っている。

私が本学へ来たばかりのときは、卒業研究発表のファッションショーをするというので、私の研究室では体育館に舞台の大きさを紐で作ってウォーキングの練習をした。そうしなければならなかった。こんなことを思い出させた今年であった。

この研究に対応するファッションショー実施記録

1. 2002.7.7. ORIBE ワールド・ファッションシリーズ第 1 回
「G I F Uを着る」GIFU wo kiru
アパレルデザイン専攻 2 年生必修「ファッションビジネス演習」中心 受講学生 44 名
2. 2004.2.29. ORIBE ワールド・ファッションシリーズ第 16 回
「G I F Uを着る」2nd 四季
アパレルデザイン専攻 2 年生必修「卒業研究 ファッションデザイン研究室」10 名
3. 2004.7.11. ORIBE ワールド・ファッションシリーズ第 17 回
「G I F Uを着る」Part III 若人が G I F Uを斬る
アパレルデザイン専攻 2 年生必修「マーケティング演習」中心 受講学生 41 名
4. 2005.7.10. ORIBE ワールド・ファッションシリーズ第 24 回
「G I F Uを着る」Part IV LIFE CLOSET

アパレルデザイン専攻2年生必修「マーケティング演習」
中心 受講学生 41 名

5. 2006.7.23. 2006 Fashion Show of the Future Designers in GIFU

- ・2006 Exhibition of the Future Designers in GIFU

—ロハスな装い—

- ・「G I F Uを着る」—happy clothing—

アパレルデザイン専攻2年生必修「ファッションデザイン
演習Ⅱ（実践）」39 名

6. 2007.9.2. 2007 Fashion Show of the Future Designers in GIFU

- ・2007 Exhibition of the Future Designers in GIFU

—つながり—

- ・「G I F Uを着る」—I D E N T I T Y—

アパレルデザイン専攻2年生必修「ファッションデザイン
演習Ⅱ（実践）」40 名

7. 2008.8.3. 2008 Fashion Show of the Future Designers in GIFU

- ・2008 Exhibition of the Future Designers in GIFU

—オリジン—

ファッションデザイン専攻2年生必修「卒業研究 ファ
ッションデザイン研究室」11 名

- ・「G I F Uを着る」one day

ファッションデザイン専攻ファッションビジネスコース
2年生必修「ファッショントレンド研究」9 名

両方に在籍学生3名いるので実働人数 17 名

全ての回でファッションモデルは生活デザイン学科全学生
が対象。時には他学科の学生も参加。

1～7回 協賛企業・後援・参加校・協力・外部講師

「GIFUを着る」協賛企業

株式会社いづみドレス、岩田商店、いわなか株式会社、ORIBE
アパレルプラザ、柏屋商事株式会社、株式会社ガゼール、株
式会社カネオ、カワボウ繊維株式会社、株式会社北川商店、
サンラリーグループ マディ株式会社、シンガポール株式会
社、株式会社ビゼン、ヒロタ株式会社、地球の糸、徳善繊維
株式会社、松久株式会社、株式会社マツバラ、美濃屋株式会
社、ラブリークイン株式会社、株式会社ルモンドたかはし、
HAITI BEACH、

「Exhibition of the Future Designers in GIFU」テキスト提供企
業

株式会社旭織物、いわなか株式会社、太田織物株式会社、カ
イハラ産業株式会社、株式会社川甚、川村ニット株式会社、
ギフメン株式会社、小林株式会社岐阜支店、三共株式会社、
株式会社サンライト、丸音織物株式会社、有限会社カナーレ

後援

中部経済産業局、岐阜県、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委
員会、社団法人中部経済連合会、財団法人岐阜県教育文化財

団、財団法人岐阜県産業経済振興センター、NHK岐阜放送
局、財団法人綿スフ織物検査協会、財団法人日本綿業振興会、
日本綿スフ織物工業連合会、岐阜県毛織工業協同組合、社団
法人岐阜ファッション産業連合会、岐阜メンズファッション
工業組合、岐阜婦人子供服工業組合、社団法人日本デザイン
文化協会岐阜支部、ナゴヤファッション協会、株式会社十六
銀行、

参加校

愛知県立一宮高等学校、岐阜県立大垣桜高等学校、岐阜県
立岐阜城北高等学校、岐阜県立東濃実業高等学校、済美高等
学校、愛知文化服装専門学校、アンファッションカレッジ、
飯原服装専門学校、学校法人平野学園 大垣文化総合専門学
校、コロムビア・ファッション・カレッジ、中部ファッショ
ン専門学校、名古屋ファッション専門学校、岐阜女子大学、
金城学院大学、名古屋学芸大学、名古屋女子大学短期大学部、
岐阜市立女子短期大学、

協力

アクティブG、ORIBE ファッションアカデミー・スタイリス
トスクール、ORIBE コンソーシアム、岐阜県繊維デザイナー
交流会、総合美容専門学校 ベルフォートアカデミー オブ
ビューティ、

外部講師

涌井博之、棚橋公子、近藤健一、沖侑字子

註

- ① 伊藤陽子、平真由美、久保村里生、『岐阜地域に於けるアパ
レル産業の活性化と大学の地域貢献 ファッションショー
「G I F Uを着る」の実施を通して』岐阜市立女子短期大学
紀要 第52輯 岐阜市立女子短期大学 2003、p.185-p.202
- ② 伊藤陽子、久保村里生、『ファッションショー「G I F Uを
着る PartⅢ 若人がGIFUを斬る」の実施』岐阜市立女子短
期大学紀要 第54輯 岐阜市立女子短期大学 2004、
p.151-p.161
- ③ 「次世代層に対するアパレルデザイン技術啓発活動報告」財
団法人中部産業活性化センター制作発行 担当事業部長辻
本雅春 執筆 受託研究 研究代表 伊藤陽子 平成19年
p.1-p.88
- ④ 「次世代層に対するアパレルデザイン技術啓発活動報告書」
財団法人中部産業活性化センター制作発行 担当事業部長
辻本雅春 平成20年 伊藤陽子執筆 p.4-p.31

参考文献

- ① 石山彰編 日英仏独対照語付 服飾辞典 ダヴィッド社
1972
- ② 成田典子編集 新ファッションビジネス基礎用語辞典 織
部企画 1990

(提出期日 平成20年11月28日)